

郷土研究会々報

第29号

昭和58年9月5日
発行
酒々井町郷土研究会
総務部

名字と地名

沖田 善三郎

① 広辞苑によると 名字(苗字、苗氏)とは、
姓かばね ②氏から出た家の名、あるいは、名なを自分の
字としたもの、平氏から出た千葉、三浦の類と
ある。

②の姓かばねは古代豪族の称号、臣おみ・連むすひ・造つく・直ちか
史あまた・主ぬし・村主むらぬし等であって既に消滅してしまっ
たものである。

現在、吾々が名字とっているものは、②による
もので、その家の興った所の地名が殆んどである。
名字からは又その当時の勢力関係も推測出
来るのではないかとと思われる。

同じ平氏の出である千葉氏と上総氏の場合一般
に千葉氏が本流の如く言われているが、千葉は郡
名であり上総は、国名であるところから見ると国
名を名乗る上総氏の方が本流であったように
思われる。上総氏はその強大さの為、頼朝によ

て罪なく打たれてしまったことからもうかがえる。
名字も本流程広い地域を示す地名を名乗るこ
とにより、千葉氏もその子孫は、大須賀保
東とよあきなどに本拠を構え、大須賀、東等の名字
を名乗る人達が出るが、大体本家より狭い
区域の地名である。

又、その子孫になると更に狭い区域である
村落名を名字とする者が、千葉系圖に多く現
われる。

千葉氏関係について見ると以上のようにあるが
現在の私達の名字も大体村落の地名が多
いようである。

同じ地名は各地にあるので同じ名字で
あっても同族であるとは限らないが名字から
出身地を推しあてる事が出来るかも知れない。
然し、名字の中には、地名でなく官名や
職業に由来するものもあるといわれている。

官名では、国司、郡司、戸し村、官名と
氏を示す、齋藤、佐藤、職業又は職業
集団の居住地を示す、犬養、錦織、服部等
がそうであるといわれる。



ナンバードン物語(三)

A生

長寿者

人生五十年といふのは昔のはなし。現在は日本人の平均寿命もぐんと伸びて世界第一位までのしあがってきました。

別表のすゝに昭和初期に男四、八二歳、

女四、五四歳と、五丁歳に満たなかつたものが戦後の二、三、二七年にならと、これより男四、七五歳、

女一、七三歳も寿命の伸びました。これより年を追って伸びつづけて五十六年に達すると男七三、七九歳、

女七九、三歳と平均寿命が世界一となりました。

寿命ののびた原因はなんでも、経済の安定に伴う生活の改善、医学の進歩などがあつた

れといえます。現在長寿を保っている老人は、明治二十年代生れで、明治、大正、昭和三代に亘つて

の風雪に耐えて数々の喜びも、悲しみも経験して来られた人ばかりです。苦労さまでした。

そこで酒々井町の長寿ナンバードンを調べて

みました。当町に於ても例外がなく平均寿命の示すごとくナンバードンに女性でそれにつづ

く八十九歳以上の人は、男をばさるゝあります。

郷土研日記

- 4月 3日 伊藤松並茶 松樹園 参加者 19名
- 4月 9日 古文高学習会 参加者 9名
- 4月 10日 石佛調査 参加者 9名
- 4月 19日 山菜食心会 準備会 参加者 7名
- 4月 21日 山菜採取 参加者 4名
- 4月 23日 山菜食心会 参加者 65名
- 4月 24日 墨田六所神社 261町1対寸 参加者 14名
- 5月 3日 野原の会 参加者 25名
- 6月 7日 小見川一大原道跡見学会 参加者 36名
- 6月 14日 参加者 37名
- 6月 15日 参加者 35名
- 6月 19日 町内史跡めぐり 本佐倉城地 参加者 52名

- 一 青木きみ 九六 中川
- 二 木村あか 九三 上岩橋
- 三 小坂むる 九三 酒々井
- 四 大野こと 九一 伊佐保
- 五 山河惣一 九一 栗酒井
- 六 加藤ちの 九〇 馬橋
- 七 福田ふよ 九〇 上岩橋
- 八 原田すみ 九〇 東浦井
- 九 宮野鏡 九〇 伊持新田
- 十 青柳あき 八九 伊持
- 十一 大塚志子 八九 墨

五十六年現在

年度	男	女
昭和元~5年	44.82歳	46.54歳
10~12	46.92	49.63
15~17	59.57	62.97
20	63.60	67.75
25	65.32	70.19
30	69.31	74.66
35	73.80	78.72
40	73.71	77.13

日本人の平均寿命 総理府統計局

難読地名(四)

室賀淳吉

市原市

海有木(あまありき)

小田部(おたっぺ)

分目(わしめ)

百目木(どうめき)

古都辺(こっぺ)

八千代市

神久保(いわくぼ)

神野(かんのう)

桑槁(そうのはし)

東金市

大豆谷(まめざく)

むかし、アソビ、あそび遊び(一)

木更津市

請西(じょうさい)

印旛村

大廻(おおぼ)

沼南町

逆井(さかさい)

白井町

神々廻(ししば)

横芝町

小堤(おんずみ)

宮本博司

昔と言ふも今から五十年位以前のことである。子供達の遊び場所は野山をはじめ家のまわりの空地などどこにもあった。

遊び道具は、現在のようにならぬ電氣や電池等で作動するようにならぬ。

立派なものはなく、せいぜい隣町佐倉か村の駄菓子屋で売っていた風、ライター、カルタなど位のものであった。従つて、遊び道具は自分らで遊びに合わせて創意工夫をこらしたものだ。

さうに、今考えて見ると遊びごとが自然、或は季節に合わせてしたものがあった。又、遊びの中に家の足しになるようなものがあった。子供の集団は、横(同年輩)の関係は勿論であるが、今のような学校および小人数家族とは異なることとも関係があったのか、大きい兄弟、小さい姉と云うように年齢のひらきがあった。こんなことから遊びの中で年齢間の交流があり、みずから長幼のルールを覚え、遊び方もなんの抵抗もなく後輩に伝承され、今なお続いているものも沢山ある。

◎独楽(こま)まわし
正月が来ると小遣で独楽を買ったものである。独楽の中には大きいの、小さいものといろくあった。よく遊んだのは喧嘩独楽である。地面に一定の円を画き、その中で回転を競う。円外に出たり中途で回転が止んだものは失格(負け)である。又回すいる独楽を紐の上に乗せ、綱わたりなどやる。回す林紐の根の方には、手がすべらないように古銭(寛永通宝)などを用いた。

※他の遊びについては次号に記します。

どうぞお楽しみ。

※以上の記事の他に木内様押尾様小別様等寄稿があり、紙面の都合上この面に廻りきれずご了承下さい。



第3・4半期 行事案内

	七月	八月	九月
古文 学習会	9日(土)午後1時30分 中央公民館	休 み	10日(土)午後1時30分 中央公民館
石佛調査	10日(日)午前9時 中央公民館集合 (雨天中止)	21日(日)午前9時 中央公民館集合 (雨天中止)	11日(日)午前9時 中央公民館集合 (雨天中止)
野草の会	30日(土)午後1時 京成酒々井駅集合 佐倉岩名飯田(雨天中止)	休 み	17日(土)午後1時 京成酒々井駅集合 飯仲大泉一台方面 (雨天中止)
史談会	12日(火)午後1時30分 中央公民館 酒々井町の民俗	30日(火)午後1時30分 中央公民館 酒々井町の民俗	27日(火)午後1時30分 中央公民館 酒々井町の民俗
郷土史講座	① 7月03日(土) ② 8月20日(土)	講師 檀谷健蔵先生 歴代の佐倉城主 (大塚館から依倉城まで)	
文化財愛護	7月17日(日)午前9時青年研修所集合 午前中終了 雨天代替24日(日) 上岩橋貝層とカカシ口の草刈り清掃		
県外見学会	9月25日(日)午前7時20分光ドライブイン前 — 7時25分ソビエツ前 出発 午前7時30分中央公民館 見学地 横浜 三渓園 山下公園 氷川丸 川崎大師 会費 ¥3500-定員90名		申込受付 7月11日(月)午前9時以後 町史編纂室

新会員紹介 (57.3~58.1)

	氏 名	地 区
385	鈴木 八十	
386	松井 十一	
387	福田 とめ	
388	千葉 なか	
389	関口 昌子	
390	青木 千日	
391	青木 喜作	
392	相京 けい	
393	清原 うめ	
394	内田 てる	
395	辻口 美代子	
396	石井 登美子	
397	西村 久乃	

行事会計報告

4月23日 山菜を食べる会
 収入 会費 500x6人 32,500
 支出 材料費 21,039
 差引残 (郷土研繰入れ) 11,462

6月7日、14日、15日
 小見川方面見学会
 収入 会費 1,000x108人 108,000
 支出 バス代 24,000
 弁当代 60,000
 拝観料 22,300
 駐車場謝礼金他 4,900
 計 111,200
 不足 3,200 郷土研より支出